

平成15・16年度

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

都道府県名：茨城県

市区町村名：つくば市

つくば市における取組紹介ホームページアドレス

<http://tomonisusumeru.talk2u.net/>**研究主題**：国際社会の中で主体的に生きる児童生徒の育成を目指して

(趣旨)：=帰国・外国人児童生徒の特性を生かした教育と国際感覚を伸ばす教育=
 つくば市独自の状況及びつくば市でこれまで積み上げてきた帰国・外国人児童生徒教育を踏まえ、それらを生かしながら、学校や地域、家庭、教育委員会が、これまでよりも一層連携を図り、それぞれの立場で何をすべきか、何ができるかを考えながら、「共に」実践研究を進める。
 特に、帰国・外国人児童生徒の特性を生かした教育のあり方を追求し、帰国・外国人児童生徒のよりよい学習環境を目指す。彼らが人間としての尊厳を保ち、自らに誇りをもって生活できる環境を作りたい。
 また、本研究をとおして、他の児童生徒や教師、学校、地域、行政が自らも学び、変化しながら、つくば市の国際化を推進していきたい。

国際化推進地域の概要

1. 平成16年9月1日現在の在籍児童生徒数

帰国児童生徒数	113	人
中国等帰国児童生徒数	0	人
日本語指導が必要な外国人児童生徒数	110	人

2. 地域の特色(帰国・外国人児童生徒の分布状況等の概要)

つくば市の人口は、189,947人(平成16年12月10日現在)で、県内では水戸市について第2位となっている。本市の人口構成は、他の同規模の市とは大きく異なっており、それは建設決定から30余年を迎えた筑波研究学園都市の成り立ちに要因を見ることができる。市の中心部には、わが国の約30%にあたる34の政府系試験研究機関が立地し、約7,000人の研究者が働いている。また、市内8か所の工業団地(120社超)も含め、研究開発機能を核とした先端技術産業地域を形成している。このような状況にあって、研究者とその家族を主とする外国人登録者は123か国7,054人(平成15年10月1日現在)を数え、これは県内一の人数である。

上記のような背景から、つくば市には海外での生活体験をもつ帰国児童生徒が多く在籍し、彼らが在留していた国は30か国におよんでいる。また、保護者の都合でつくば市にやって来る外国人児童生徒も多く、現在は、38か国より来日した327人の外国人児童生徒が、市内の各小中学校で学んでいる。

近年つくば市では、帰国・外国人児童生徒が在籍する学校数が増加し、小・中学校合わせて31校を数えるようになった。そうした多様な文化的背景や母語をもつ帰国・外国人児童生徒に対して、彼らの特性を生かしながら、他の児童生徒と共に、どう育てていくかがますます重要になってきている。

現在、帰国・外国人児童生徒が在籍している学校においては、それぞれの実態に応じて日本語指導をはじめ、さまざまな指導を進めている。特に、外国人児童生徒が多く在籍している学校では、日本語指導加配教員が中心になって取り出し指導をしている。一方、加配教員が配置されていない学校においては、担任が個別に指導したり、学校の要請に応じて教育委員会が派遣した教育相談員や協力者が初期指導を進めてきている。

つくば市の特色として、外国人児童生徒への日本語指導は、地域のボランティア

アの支援に負うところが大きい。20年以上の経験を有するボランティア団体である「つくばインターナショナルグループ(TIG)」の支援の幅は広く深く、教材もたくさん開発している。また、国際交流会やバザーを実施して、保護者との交流にも尽力している。

また、最近の傾向として、日本語指導ボランティアグループが新たに発足した学校が数校あるが、これは、学校とTIGの連携によるものである。

こうした状況から、本事業をとおして学校や地域、家庭、ボランティア、教育委員会がより一層好ましい関係を築き、「共に」教育の国際化に資するために、さまざまな実践研究を試みた。

3. 帰国・外国人児童生徒の実態(母語, 在日期間, 日本語能力の程度, 学校生活の適応状況等の概要)

(1) 在留国別帰国児童生徒人数

【平成16年9月1日現在】

アメリカ合衆国	46	中国・香港	4	タイ	7
イギリス	8	フランス	4	ドイツ	6
フィリピン	3	イタリア	3	メキシコ	1
インドネシア	3	カナダ	1	スイス	3
フィンランド	2	スウェーデン	2	ケニア	2
ルーマニア	2	アイルランド	1	チリ	2
デンマーク	2	ホンジュラス	1	ベルギー	1
ニカラグア	1	マレーシア	2	ブラジル	1
オーストラリア	2	ポーランド	2	オランダ	1
ノルウェー	1	ニュージーランド	1		

*2カ国に在留していた児童1人, 生徒1人

教科指導で日本語指導が必要な児童が2人在籍しているが、他の帰国児童生徒は、特に日本語指導を必要としない。

在留国における就学形態別に見ると、現地校33%, 日本人学校21%, インターナショナルスクール5%, 現地校と補習校10%, 補習校3%, 就学前28%である。

(2) 母語別外国人児童生徒(日本語指導必要児童生徒数)【平成16年9月1日現在】

中国語	131(37)	韓国語	69(15)	ロシア語	15(3)
フィリピン語	18(8)	英語	18(9)	スペイン語	16(8)
ポルトガル語	11(7)	ベンガル語	5(4)	タイ語	6(0)
ヒンディ語	6(4)	タミル語	6(1)	ウルドゥ語	5(5)
インドネシア語	4(2)	ペルシャ語	2(1)	アラビア語	3(0)
セルビア語	2(0)	フランス語	2(0)	ベトナム語	2(1)

スウェーデン語	1 (1)	グルジア語	1 (0)	アメリカ語	1 (1)
スワヒリ語	2 (2)	カザック語	1 (1)		

*二重国籍を有する生徒2人

滞在期間は2～3年が多い。これは、つくば市にやってくる外国人児童生徒の保護者の多くが、研究者や留学生であるためである。これらの児童生徒は、つくば市中心部の小中学校に在籍している。しかし、地域によっては、就労目的で来日し、滞在期間が未定の保護者や事情により日本に永住を希望する保護者もいる。

外国人児童生徒を受け入れている小中学校は、市内合わせて31校を数え、そうした保護者のさまざまな都合で来日している外国人児童生徒ひとりひとりの実態や状況に応じた日本語指導計画を立て、個別指導を進めている。

国際化推進地域における体制の整備

1. 教育国際化推進連絡協議会の概要

(1) 構成員及び各構成員の連絡協議会内における役割

つくば市教育の国際化推進協議会

- ・ つくば市教育委員会教育長
- ・ 教育委員会指導課
- ・ 市内小中学校長会 市内幼稚園長会
- ・ 国際化推進センター校
- ・ 市教育研究会国際理解研究部長
- ・ つくばインターナショナルグループ(TIG)代表

つくば市教育の国際化推進委員会

《事務局：教育委員会指導課》

国際化推進センター校代表
 小中学校日本語指導担当教員代表
 小中学校国際理解教育担当代表
 TIG各会代表
 外国人児童生徒保護者代表
 筑波大学大学院非常勤講師
 筑波大学大学院生
 市教育委員会指導課

協力者：つくば市AET(英語指導助手)
 外国人児童生徒教育相談員
 小中学校進路指導担当者代表
 幼稚園主任会代表
 多言語対応翻訳者(筑波大学院生) 他

アドバイザー：早稲田大学大学院教授

(2) 協議会における活動内容と成果

本事業の根幹である，学校，地域，ボランティア，教育委員会の連携のもとに研究を進めた結果，ネットワークが広がり，さまざまな方面からの支援を得ながら研究成果を上げることができた。

本事業の実践研究の中核となる推進委員会を年度内に10回開催したことで，それぞれの企画・立案・準備の時間が確保でき，当日の運営もスムーズに進めることができた。また，メーリングリストの活用により，委員間での連絡・調整・意見交換などが綿密になり，このことが事業を進める上で奏功した。

推進委員を7グループに分けたことで，「児童生徒の受入施策の構築」「日本語指導に関する研究」「教育相談・進路指導」「保護者の交流・悩み相談」「児童生徒活動場面の提供」「教育関係資料の整理・収集」「情報の発信・公開」についての実践研究が同時進行できた。

初年度に，アドバイザーから助言いただいたことを二年次に生かし，市としての必要性や方向性を見い出しながら，実践を積み上げることができた。

筑波大学大学院非常勤講師には，筑波大学との協力関係を築いていただくとともに，特に専門分野である「連携のあり方」についてアドバイスをいただいたことで，それぞれの連携が円滑に進んだ。

2. 国際化推進センター校の概要

学校名：		担当教員氏名：			
TEL：		FAX：			
住所：					
HP：					
	帰国児童生徒	13人			
	外国人児童	中国語	9人	タガログ語	2人
		韓国語	6人	ヒンディ語	1人
		ロシア語	2人	ベトナム語	1人

3. 国際化推進センター校での指導内容等

日本語能力	指導を開始してからの期間	年齢	指導内容
日常会話以外（教科学習等）も可能	3年3ヶ月～4年	11才～12才	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を使って算数・社会・理科の学習をする。 調べ学習の補助 学習用語の説明 漢字の学習 文集作りの補助
日常会話が可能	6ヶ月～3年3ヶ月	11才～12才	<ul style="list-style-type: none"> 動きのことば，様子のことば，反対語，接続詞等の学習 音読の練習 短文作り インタビューゲーム 漢字の練習 早口言葉

日常会話 も困難	0ヶ月 ～ 4ヶ月	9才 ～ 9才	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介のしかた ・学校生活や日常生活に必要な挨拶の練習 ・ものの名前を覚える(絵カード) ・パペットを使って簡単な会話の練習 ・ひらがな, カタカナの練習 ・絵本の読み聞かせ ・カルタを使って50音の学習
-------------	-----------------	---------------	--

平成16年度の具体的な取り組みとその成果について

1. 研究趣旨を達成するために実施した活動及びその成果

(1) 全体での取組

内容 月	推進委員 会及び連 絡会	児童生徒 受入施策 の構築	日本語指 導に関する 研究	教育相談 進路指導	児童生徒 活動場面 の提供	教育関係 資料の整 理・収集	保護者の の交流, 悩み相談	情報の 発信・ 公開
4	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度 組織づく り ・推進委 員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自 の受入マ ニュアル の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語 指導講座 計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国外 国人児童 生徒の進 路情報収 集 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交 流会や国 際理解集 会につい ての情報 交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中 における 通知文書 資料等の 収集(翻 訳版) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに 編入して くる帰国 外国人児 童生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業 の取組 について ホーム ページの 公開と更 新
5	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委 員会 ・日本語 指導教員 連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校 の帰国外 国人児童 生徒カル テ様式の 収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語 指導にか かわる研 修会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相 談, 教育 相談開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際子 どもとお となの座 談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中 における 通知文書 等の翻訳 版の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際子 どもとお となの座 談会 ・保護者 交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 及び記 事更新
6	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委 員会 ・日本語 指導教員 連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人 児童生徒 のための ポスター 作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語 指導につ いての学 校訪問 ・日本語 指導にか かわる研 修会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人 児童生徒 及び保護 者のため の高校進 路ガイド ンス準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・小 学 校「国 際交流 会」 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有で きるもの をまとめ 必要な 文書の翻 訳開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会 でのアン ケート集 計 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委 員会 			<ul style="list-style-type: none"> ・中学校 進路指導 主事, 3 学年主任 代表への 協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交 流会や国 際理解集 会につい ての情報 交換 			
8	<ul style="list-style-type: none"> ・中央研 究協議会 参加 						<ul style="list-style-type: none"> ・進学説 明会保護 者への呼 びかけ 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委 員会 	↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・進学説 明会の資 	↓	↓	↓	↓

10	・推進委員会 ・日本語指導教員連絡会	・学校内の受け入れ体制の整備	・県南地区国際理解教育及び帰国・外国人児童生徒等研究協議会への参加(小学校) ・日本語指導研修講座「外国人児童生徒の作文教育について」	・高校進学ガイダンスの開催	・公開文化教室準備	・幼小中における通知文書等の対応母語の拡大	・高校進学ガイダンスの開催, アンケート作成と集計	・事業の取組についてホームページの公開と更新
11	・推進委員会 ・日本語指導教員連絡会	・外国人児童生徒受け入れのための学校マップ作成	・日本語指導研修講座「教材作り」	・進路指導の充実 ・外国人生徒向けの放課後チュータ		・ホームページで公開		
12	・推進委員会 ・日本語指導教員連絡会		・日本語指導にかかわる研修会参加		・センター校「公開文化教室」	・通知文書の追加	・進路についての情報提供	
1	・推進委員会 ・日本語指導教員連絡会		・次年度への引き継ぎ準備	・帰国・外国人児童生徒の進路情報収集	・ホームページでの公開			
2	実践研究のまとめ							
3	・推進委員会	本事業の取組についての総括						

(2) 具体的活動とその成果

国際子どもとおとなの座談会	16.5.9	<ul style="list-style-type: none"> ・つくばフェスティバル「国際交流フェア」で, 市内に在籍する外国人児童生徒及び保護者の交流会を実施した。 ・推進委員及びAETを中心とした協力者の企画運営により, 率直な意見や情報の交換ができた。
---------------	--------	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・10月に開催する高校進学説明会に向けて保護者のアンケートを実施し、多くの保護者の考えや悩みを聞くことができた。
国際交流会	16.6.18	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA留学生をはじめ、市AET、外国人保護者など多数の協力により、全学年全学級で楽しい国際交流が展開された。 ・外国人児童も、自国文化の紹介、会の進行、通訳などで活躍の場面が広がった。 ・日本語指導ボランティア、日本語指導教員、国際理解担当者、学生など多くの参加者があり、幼小中合同での研修となった。
外国人児童生徒及び保護者のための高校進学説明会	16.10.2	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体として開催する初めての説明会であったが、予想以上の参加があり、質問も多かった。 ・参加者の母語別に対応できる協力者に通訳を依頼した。 ・現在、市内の公立高校に通う外国人生徒による体験発表が好評であった。
日本語指導講座 「外国人児童生徒の作文教育について」	16.10.22	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことと話すことを一体化させるという実践例の紹介に、会場からは参考になったという感想が多く寄せられた。 ・学校からは、管理職や日本語指導教員が参加し、ボランティアとともに研修を深めた。
日本語指導講座 「日本語指導における教材作り」	16.11.18	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導にかかわるさまざまな立場や経験の参加者が、日本語指導に関する情報を交換しあったり、教材を紹介しあったりしながら、参加者同士の交流も深まった。 ・教室ですぐに使える教材を実際に作成し、楽しい講座となった。
公開文化教室 (センター校)	16.12.16	<ul style="list-style-type: none"> ・センター校が毎年実施している文化教室に市内の外国人児童生徒の参加を募ったところ、55人の児童生徒が希望した。 ・参加した児童生徒は、琴の演奏を聴いたり、一緒にお正月の遊びをしたり、餅つき体験等をとおして日本文化に親しむとともに、お互いの交流を深めた。
外国人児童生徒向けの各種通知文書の見直しと翻訳		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、小中学校で保護者に通知する文書を整理し、必要に応じて数カ国語に翻訳する作業を進めた。 ・ホームページ上に文書を掲載し、ダウンロードして活用できるようにしている。
受け入れ体制の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・5カ国語対応のポスター及び学校案内マップを作成し、外国人児童生徒の受け入れを体制を整備してきた。

2. 本事業担当教員の国際化推進地域内の教育体制における役割及び活動状況

- (1) 国際化推進委員会への参加及び進行
- (2) 日本語指導担当教員の連絡会への参加
- (3) 県内外研修会への積極的参加
- (4) 学校間交流の計画と実践
- (5) 日本語指導資料の整理
- (6) 校内日本語指導体制の整備と他校への紹介

3. 本事業担当教員以外（民間企業，地域の団体，人材等）の活用状況

- (1) つくばインターナショナルグループ（TIG）
- (2) 保護者を中心とした地域ボランティア
- (3) 外国人保護者
- (4) 筑波大学をはじめとする大学院生，学生
- (5) 筑波大学教授，非常勤講師

4. 3で活用した企業，団体，人材等の概要

- (1) つくばインターナショナルグループ（TIG）
風の会 ・ 結の会 ・ ひかりの会 ・ 楠の会
- (2) 保護者を中心とした地域ボランティア
小・中学校での日本語指導
- (3) 外国人保護者
教育相談及び日本語指導
- (4) 筑波大学大学院生，学生
韓国籍の院生，中国籍の院生：教育相談及び進学指導

5. その他特筆すべき平成16年度の取組及びその成果と課題

- (1) 日本語指導研修講座の開催
日本語指導にかかわるボランティア，教員，学生，関係諸団体との合同研修会を引き続き実施し，効果をあげた。自作教材の紹介や作成，情報の交換もできた。今後も引き続き，定期的を開催することにより，担当者やボランティアの指導力向上に結びつくことを期待している。
- (2) 高校進学説明会
市全体として初めて実施した説明会であつが，多くの外国人指導生徒及び保護者の参加があり好評であつた。来年度以降も企画してほしいとの要望も多く寄せられた。今回は，参加者の母語別通訳者に協力を依頼したが，次回からは，母語別翻訳資料を用意することによって，理解が深まると感じている。

6. 平成16年度の成果と課題に基づく今後の課題

平成15・16年度文部科学省から指定を受け，つくば市では「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域事業」を推進してきた。学校，地域，家庭，教育委員会の連携によるこの事業は，2年間実践研究を積み上げた結果，着実に効果を上げつつある。

さらに，今後も継続して実践研究をすることによって，これまでの取り組みがより一層浸透し，定着するものと確信している。また，継続することによって，可能になる施策もある。

特に，市教育委員会として来年度から推進していきたい喫緊の施策は，「日本語指導コーディネーター」を組織化することである。近年つくば市では，外国人児童生徒が在籍する学校数が増え，それに伴って児童生徒の母語も多様化している。従って外国人児童生徒に対しては，日本語の習得をはじめ，学校生活への適応促進への配慮がますます必要になってきている。そこで，これまで長年にわた

って市内小中学校で日本語指導を経験しているボランティアを「日本語指導コーディネーター」に委嘱して、主として日本語指導担当教員のいない学校への訪問指導を依頼し、外国人児童生徒の受け入れや初期指導の対応をスムーズにしようと考えている。

その他、課題に基づく今後の取組予定は下記のとおりである。

ア 帰国・外国人児童生徒の実態に応じた受入施策の構築

市としての受入体制を確立し、迅速な対応をするために作成したマニュアルを普及させる。

イ 日本語指導講座の継続

これまで2年間で積み上げてきた日本語指導にかかわる多様な研修を充実させる。特に、初めて担当する教員やボランティアが自信をもって指導ができるように、講座を実施する時期を年度当初に開講する。

また、文部科学省から示されたJSL (Japanese as a second language) カリキュラムを学び、児童生徒の実態に応じて、日本語指導と教科指導を統合する支援ができるようにする。

ウ 学校における日本語指導体制の確立

各学校においては、日本語指導担当教員、担任、ボランティア間の情報を交換し合うための連絡会や連絡ノート等を工夫改善する。また、担当者がかわってもスムーズに支援ができるようにシステムを構築していく。

さらに、市内各小中学校の日本語指導担当教員の連絡会や研修会を定期的に行き、日本語指導に関する資料や教材の開発に努める。

エ 教育相談や進路指導の充実

昨年9月に実施し好評であった、外国人児童生徒及び保護者対象の高校進学説明会を次年度も継続して開催する。同時に、日本の高等学校や専門学校へ進学を希望する生徒に対して、将来への見通しをもった進路指導や教育相談を進めていく。

さらに、学習面での基礎的事項の定着を図るために、放課後個別指導の時間を設けて、スクールボランティアの学生が指導にあたる。

オ 帰国・外国人児童生徒の特性を生かす活動場面の提供

お互いの言語・文化、自然、社会の様子等を紹介し合うなど、それぞれの経験を生かした活動を工夫することで、多様な文化や考え方を尊重する態度を育むことができるよう支援する。

そのための活動の一つとして、今年度開催した「公開文化教室」を継続し、帰国・外国人児童生徒同士の交流を深める。

カ 帰国・外国人児童生徒教育関係資料の活用

これまで各学校や日本語指導ボランティアグループが蓄積してきた教材や教具を広く紹介し合い、活用を図っていく。

さらに、幼稚園をも含めた各種通知文書等は、必要なものは随時追加しながら対応母語を増やしていく。

キ 帰国・外国人児童生徒保護者の交流会の開催

市のインタナショナルフェアにおいて、前年度は「外国人こどもの座談会」を実施し、今年度「おとなとこどもの座談会」を実施したところ、予想以上に多くの外国人児童生徒の保護者の参加があった。今後も同様の保護者同士の交流会を企画し、懇談や情報交換をとおして、保護者の心のケアに努める。

ク 情報の公開、発信

本事業のホームページを充実させ、取組内容を広く発信する。また、児童生徒教育関係資料も公開し、ダウンロードして活用できるようにする。

